

「働くこと」を通して自立の気概を育む

～子どもハローワークの取組～

大館市教育研究所

大館ふるさとキャリア教育の使命

大館市は秋田県北部に位置する人口7万8千人の地方都市である。全国で最も少子高齢化率の高い秋田県の中でもさらに先進の地である。地場産業の衰退と相まって、このまま推移するならば、4半世紀後には、市の人口は5万人程度まで落ち込み、半世紀後には、地域社会そのものが崩壊しかねない。いわば、いずれは滅亡の谷へ至る道であると知りながらも、その道を歩いて行かざるを得ない状況であった。その一本道から脱する未来戦略として3年前から大館市の教育の根幹に据えたのが「大館ふるさとキャリア教育」である。秋田県教育委員会は平成5年から郷土への誇りと愛着と育てる「ふるさと教育」に取り組んでおり、当市の子ども達もふるさとのよさは十分に感じてきている。しかし、地域の価値や可能性が子どもの将来の夢や職業選択には結びつきにくく、その結果が高校卒業と共に7割が地元を離れる現状にある。将来に夢を抱くことはまず都会に出ることだという意識は未だに根強く、ふるさととは「志を果たして帰る」場所となったのである。

昨今、若者のニート、フリーターが社会問題となり、文部科学省、経済産業省は職業観を育てる「キャリア教育」を推進している。しかし、少子高齢化という地方ならではの課題を抱えている当市が今取り組むべきは、市の将来を支えていく人材を育成することである。ここから「ふるさと教育」と「キャリア教育」の理念を融合させた当市独自の教育理念「ふるさとキャリア教育」が生まれたのである。

大人の本気と子どものやる気が地域を変える

3日間で11万6千人の集客をもって成功裏に幕を閉じた「本場大館きりたんぼまつり」（平成25年10月12～14日）、会場である大館樹海ドームには、ボランティアとしてイベントを支えた約千人の子ども達の活躍の姿があった。市内の小・中・高・大学生が、「ステージ発表」「あいさつ隊」「名所ガイド」など前面に立つ仕事から「おそうじ隊」「店舗コーナー隊」「着ぐるみ隊」などの裏方の仕事まで12種類の仕事を担っており、子ども達のさわやかな働きぶりは、実行委員会はもとより、来場した県内外からの観光客からも好評を得ている。子ども達にとっては、休日を返上してのボランティアであるが、来場者や地域のために役に立ったという充実感が子ども一人一人の表情にあふれていた。

きりたんぼまつりは41回を迎えるが、平成24年から会場を大館樹海ドームに移し、

産学官民が一体となって、市を代表するイベントへと成長させている。このイベントは、単なる地域活性化、経済効果を目的としているのではなく、郷土料理であるきりたんぼを通して、大館の食文化を継承すること、イベントに市民が参画することを通して大館への愛着と地域の未来を担う人財を育成することも大きな目的である。教育委員会では、子ども達が学校で学び、身に付けた力を発揮する場、地域の中で大人と触れ合うことで新たな学びを得る場として、全小・中学校に参加を奨励している。特に、運営に携わる大人の成功を願う熱い思い、大館を活性化させようと必死な姿に直接触れることは、学校の中だけでは得られない学びとなっている。キャリア教育というと、オリンピック選手など世界的に有名な人、大企業の社長のように成功を納めた人の講演を聴く授業がイメージされるが、地元のために働き、地元の発展を願いながら日々地道に地域を支えている身近な大人の存在を知ること、ふるさとキャリア教育では大事なことなのである。

子どもハローワークの設置

ボランティアスタッフとして参加した約906名は、いわゆる「動員」ではなく、あくまで個人の「自主参加」となっている。それを可能にしているのが大館市教育委員会ならではの「子どもハローワーク」のシステムである。

子どもハローワークは平成24年6月に、企業からのオファーと子ども達の体験を直接つなぐキャリア体験システムとして教育研究所内に立ち上げたものである。今や、限られた職業しか目に入らなくなっている子ども達にとって人気の職業は、男子ではプロスポーツ選手、女子ではパテシエである。学校と家庭の往復の生活となっている子ども達にとって、得られる情報はごく限られたものになっており、職業選択の幅は極めて狭い。キャリア教育をせざるを得ない所以である。

現在、市内の全中学校では、1～3日の職場体験が実施されている。文部科学省は、5日間の実施を奨めている。学校では、その必要性和有効性は十分認識されながらも、受入企業との交渉や打ち合わせ等教師の負担が大きいこと、授業時数に余裕がないことから取組を拡大させることは難しい現状にある。また、受け入れる企業に職場体験のノウハウがあるかどうか、受入時期により企業側の負担も大きいなどの課題もある。しかし、どの業界でも後継者育成や地域貢献としての教育支援は重要と捉えており、参加者を集めるのに苦労しながらも子ども向けの企画を実施している。それぞれの思いやニーズがマッチングされずにいたのである。現在は、企業からのオファーが子どもハローワークを通して、子ども達に届くこのシステムが周知され、募集件数が増えてきている。

子どもハローワークの流れ

子どもハローワークは、基本的に学校の教育課程外の活動として、土日や祝祭日、長期

休業日に設定されている。企業からの依頼に基づき、日時、場所、内容、人数等が記載された募集票が、各小・中学校の子どもハローワーク掲示板に張り出されるほか、ホームページからも閲覧、検索できる。子ども達は自分の興味に応じて、体験を選び、保護者の同意を得て参加申込書を教育研究所へFAXで送付する。その後、参加決定書が送られる流れとなっている。市内の全小・中学生は、体験の履歴を記録するキャリア・パスポートを持っており、体験当日はこれを持参し、体験終了後には企業から認め印をもらう。後日、学校に提出することになる。教育研究所内には、これらの業務を担当するキャリア教育コーディネーターを配置しており、地域と子どもをつなぐ役割を果たしている。

大館盆地全体を教室に、市民一人一人を先生に

平成24年6月末に募集を開始して以来、これまでに3000名を超える子ども達が子どもハローワークを活用している。募集は、ロボットプログラマー、保育士、画家、医療従事者、美容師、販売業、接客業等の職業体験から、地域イベントのスタッフ、職業講話会への参加など様々である。自分で探し、選んで参加することは、子ども達の主体性や責任感を育むことにもつながっており、参加態度は真剣そのものである。体験を通して、子ども達はプロの仕事の厳しさ、工夫、努力に驚き、先人の知恵に感心する。一つの職場が様々な役割の人たちで成り立っていることに気付き、働くことの責任の重さを感じる。生き生きと働く大人の姿にあこがれを抱き、熟練の技術に尊敬の念を持つ。子ども達にとって、活動の場が学校から地域に移ることで、多様な世代、職種の方々との出会いや交流が生まれ、子ども達の視野や価値観は確実に広がっている。

未来につながる出会い

職業体験には、明確な将来の夢を持って子どもハローワークに申し込む子どももいれば、とりあえずいろいろな職業を体験してみようと参加する子どももいる。経験の幅が広がることは、自分の新たな一面を発見することにもつながるものである。逆に、興味のある職業に何度も申し込む子どももいる。全国的には、就職後3年以内の離職者が増えていると言われるが、原因として職業選択のミスマッチが挙げられている。学校で行われるたった一度の職業体験で進路選択を迫られることには当然無理がある。

そして職業体験は、単に職業を知るだけでなく、社会人として必要な力に子ども自らが気付くきっかけにもなる。当市の子ども達に必要なとされるコミュニケーション能力や表現力も、実社会の中で様々な年代の人たちと接するからこそ、実践的に身に付くのである。子ども達は「働くこと」と「学校での勉強」のつながりを実感することになる。そして、普段接している家族や教師以外の大人が語る人生観や職業観は、素直に子ども達の心にしみ込んでおり、これからの生き方に必ずや影響を与えるものと思われる。

地域社会が、共に学び、共に育つ

当初は小・中学生を対象とした人材育成として始めた取組だが、子どもを受け入れる企業や地域社会にとっても成果が実感され始めている。職場に、子どもが入ることによって自分の職業や役割への誇りや責任が再認識できた、緊張感が生まれた、自社を知ってもらいよい機会となった、地域の一員として子どもたちの人材育成に携われることがうれしいなど、大人側にも学びと社会貢献できる喜びがうかがわれる。

現在大館市が取り組んでいる「ふるさとキャリア教育」は、少子高齢化問題を抱える同様の自治体から関心を寄せていただいております。本県の学力への関心とともに視察が増えている。教育関係者はもちろんであるが、地方自治体、議員による行政視察の依頼が多くなっている。ぜひ、様々な分野の方々に、子どもたちの生き生きとした姿、子どもを核に大人も地域も元気になろうとしている今の取組をご覧いただき、ご指導、ご助言をいただければ幸である。

全小・中学校に
貼り出される募集票

野菜販売店での職場体験、参加者大募集!

地元の野菜がどのように販売されているか見てみよう!

7月15日(月)まで

募集票

募集番号 26

日時 1/7/23(水)・2/29(月) いずれの日も 10:30~12:00 ※参加したい日をえらんでね

内容 野菜や果物の袋詰め
値札シール付け
商品をならべるなど

対象 小学5年~
中学3年
1日2名

場所 とれたて旬菜館
(大館警察署そば)

とれたて旬菜館ってどんなお店?
地域の農家さんが作った野菜などの商品を販売するJAのお店。野菜が運ばれるところから売れるところまでを間近で見よう。当日はとれたて旬菜館のエプロンをつけて、お仕事を体験できるよ!

問合せ先: 大館市教育研究所 電話43-7114



きりたんぼまつりでの、パンフレット配り



人気の保育士体験。年間300名余りが
保育所・幼稚園に足を運んでいる